

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (松阪工業高等学校 定時制課程)

1 目指す姿

| | | |
|------------|-----------|--|
| (1) 目指す学校像 | | ○生徒一人ひとりが基本的な生活習慣を身につけ、社会生活に適応し、個に応じた自己実現を果たすことを支援する学校 ○生徒の相互理解の精神を育み、相手の立場に立って考える人権感覚を養う学校 |
| (2) | 育みたい児童生徒像 | ○働きながら、前向きに学習に取り組む意欲を有する生徒 |
| | ありたい教職員像 | ○生徒の個性を伸ばし、人間性を高めることを常に意識し、生徒の成長を自らの喜びとする教職員 |

2 現状認識

| | | | |
|-----------------------------|-------|---|---|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | | <p><生徒> 理解しやすい授業、基礎学力の向上と、居心地の良い学校</p> <p><保護者> 基本的な生活習慣を身につけること、基礎学力の向上と、安全で安心して通える学校</p> <p><進路先> 基礎学力があり、コミュニケーション力のある人材</p> | |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | | <p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><家庭> 子どもや学校の現状の報告 <中学校> 学校の様子と卒業生の近況報告</p> | <p>連携する相手への要望・期待</p> <p><家庭> 学校教育活動への理解と協力 <中学校> 継続的・効果的な指導のための個々の生徒の情報共有</p> |
| (3) 前年度の学校関係者評価等 | | <p>○命を大切にする教育については家庭との連携を密にしてとり組む必要がある。</p> <p>○取組を積極的にアピールし、入学志願者数の増加や地域からの信頼度の向上等に努めてもらいたい。</p> <p>○「ウィズコロナ」も視野に、ICTの活用等の新しい教育活動の充実にも尽力してもらいたい。</p> | |
| (4) 現状と課題 | 教育活動 | <p>○基礎学力の取り組みをさらに推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていく。</p> <p>○キャリア教育の充実と、生徒が主体的・対話的に深い学びができるように授業改善に取り組む。</p> <p>○小中学校で不登校を経験している生徒や他校より再入学してくる生徒等、在校生は多様化している。また、生徒の多くが悩みや課題を抱えている。</p> <p>○近年、外国人生徒が増加傾向にあり、令和3年度の外国人生徒の在籍数の割合は 54.4% (31/57名) を占めている。そのため、学校生活の中で、文化の違いやコミュニケーションにおいて困難な場合がある。</p> <p>○日本語に課題のある生徒については、入学時の現状認識から取り組み、継続的に指導を深められるように全職員が情報共有を行い、効果的な指導に取り組むように努める。</p> <p>○外国につながる生徒に対しても、就職時には、会社からは日本語の運用能力が求められる。そのレベルを見据えて、日本語教育を充実させる必要がある。</p> <p>○平素の学校生活においても、日本語を使わずに、母語等で済ませてしまうことも多く、日本語で意思疎通を行う機会を増やす生徒の意識改革必要がある。</p> | |
| | 学校運営等 | <p>○生徒一人ひとりに対し、生徒面談や教育相談等、きめ細かな指導体制をとっていく。</p> <p>○個人面談の充実と職員の情報共有を積極的に行い、組織的な指導の向上に努める。</p> <p>○生徒の基礎学力向上と外国につながる生徒の日本語指導力向上のため、ICT教育、JSLカリキュラム等教職員研修の継続と教材の開発を継続する。</p> <p>○令和2年度の三重県内の反省すべき事象を鑑み、「学校信頼向上委員会」を設置し、不祥事根絶についての働きかけが求められる。</p> <p>○少人数の教職員集団によって、多様な生徒の自己実現に向けて、いかに適切な対応をはかるかが大きな課題である。</p> | |

3 中長期的な重点目標

| | |
|-------|--|
| 教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ○個別指導(三者面談・家庭訪問・教育相談等)を実施することにより、基本的な生活習慣・自らを律する精神を生徒一人ひとりが身につけている。 ○多文化理解教育を行い、他の国の文化や習慣を相互理解し、他人を思いやる心を持っている。 ○学習および学校活動への興味・関心・意欲を生徒一人ひとりが持ち、積極的に参加する学校となっている。 ○基礎学力の向上の取り組み等を推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていくとともに、コミュニケーション能力の向上、職業選択能力や、勤労観・職業観の育成を図る。 ○命を大切にする教育、人権教育、道徳教育、キャリア教育、主権者教育等の充実を図る。 |
| 学校運営等 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒に提供する授業内容を充実し、基礎学力向上につなげるため、全教職員が連携して授業公開や授業研究などを行うことにより授業改善をすすめる。特に、生徒自身の主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを進める。 ○教職員が相互に学び合い高め合うことで資質能力を向上させ、学校の組織力を高める。 ○総務事務の集中化、教職員育成支援システム、学校関係者評価等、新たな制度の導入が進む中で、会議の効率化や仕事の平準化などにより、勤務総時間の縮減を図る。 ○三重県いじめ防止条例を理解し、その趣旨に基づく取組に努める。 |

4 本年度の行動計画と評価

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

(1) 教育活動

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------|---|----|----|
| 生徒指導 | <p>(1) 基本的な生活習慣の確立を支援し、社会生活への適応を図るとともに、道徳教育や人権教育をはじめとする教育活動全体を通じて、命を大切にする教育を行う。</p> <p>(2) 三重県いじめ防止条例に基づき生徒が主体的かつ自主的に行ういじめの防止に資する活動を支援する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業中の机間巡視を積極的に行い、個別指導を一層充実する。 ○登校時の健康チェックとともに、生徒と教師の信頼関係を深める。 ○総合的な探究(学習)の時間等において、人権講話、道徳教育、キャリア教育、薬物乱用防止講話等、命の大切さや規律の大切さについての講話等を年10回以上実施する。 ○問題行動の未然防止につとめて指導を行う。 ○いじめの早期発見に対する生徒の意識を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・SNSの使い方の指導、使い方調べを適切に行う。 ・担任等と生徒の対話を増やし、早期対応に心がける。 ・担任は、週一回は各生徒と対話ができるように心がける。 ○担任と生徒との対話を心がけ、卒業まで頑張らせる指導を充実する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題行動の減少。(令和2年度実績 0件) ○中途退学者の減少。(令和2年度 2名) ○いじめの認知を積極的に行い、早期、継続的にその解消に努める指導を心がける。いじめは存在しなかった又は存在したが早期に組織的に継続した指導を行い、解消することができた。 | | ◎ |

| | | | |
|-------------|--|--|--|
| <p>学習指導</p> | <p>(1)基礎・基本を重視した授業を推し進め、生徒の基礎学力の向上を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ喜び、わかる楽しさを実感させる授業の実現のために教科ごとに研究授業、授業公開に取り組む。研究授業、授業公開を年3回以上実施する。 ○生徒の実態を勘案しながら、授業、HR 等において、オンライン授業等 ICT 教育の活用・充実に努める。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの学習意欲を向上させる。 ○基礎学力テストを年2回実施し、生徒の基礎学力の実態把握及び基礎学力の伸長を図る。 ○授業、HR 等において、オンライン授業など何らかの ICT 教育の活用・充実に努めた教員の割合、80%以上を目指す。 <p>(2)外国人生徒の日本社会への適応のために、日本語の習得に重点を置く。また、多文化理解教育を推し進め、国際的な人権感覚を養う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外国人生徒担当者会議を各学期に1回以上、日本語指導研修会を年1回以上実施し、日本語の習得状況の把握、効果的指導法等を話し合う。 ○国語の授業等を中心に、漢字、語彙力向上の取り組みを行う。 ○日本語に課題のある生徒について、7月と12月に「日本語運用時間アンケート（仮称）」を実施し、日本語の使用状況の改善を促す。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本語能力テスト等の結果を指標とする。 ○「日本語運用時間アンケート（仮称）」により、生徒が日本語を使用するという意識を改善し、日本語運用時間20%向上を目指す。 | | |
| <p>進路指導</p> | <p>(1)生徒一人ひとりの能力と適性に合った進路の実現を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生から継続した進路指導を実施し、生徒一人ひとりの進路希望の実現を支援する。生徒一人ひとりの個別面談を年3回以上実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業予定者の進路希望を実現させる。（令和3年度卒業予定4名） <p>(2)生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、働きながら学ぶことを奨励する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャリアノートの活用とキャリアガイダンスの充実ににより、就労の奨励・推進を図る。ハローワーク等の関係機関との情報交換を月1回以上実施する。 | | |

| | | | |
|--|---|--|--|
| | <p>○働くことの意義を身に着けられるよう、生徒への声掛けを積極的に行う。(1年生については、夏頃以降)</p> <p>【成果指標】</p> <p>○働きながら学ぶ生徒の割合について70%以上を目指す。</p> <p>令和3年5月1日現在、56.4%(1年:4/16名、2年:17/21名、3年:8/15名、2/3名)(<休学等を除く>)</p> | | |
| 改善課題 | | | |
| <p>◎基礎学力の取り組みをさらに推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていく。</p> <p><生徒指導></p> <p>新型コロナウイルス蔓延防止のための指導活動として、日々職員が生徒の体温の検温を行うだけでなく、生徒への声掛け、授業中の巡回指導、個別連絡の徹底を図ることにより、生徒との関係性は、ますます良くなっている。</p> <p>昨年度、本校の授業の様子を見学に来た中学生から、生徒が意欲的に授業に参加している様子、安心して授業を受けられる環境を自らの目で確かめ、好評であった。今年度も積極的に中学生等に授業見学に来てもらうよう努める。また、不登校経験のある生徒にとっては、実際の学校の雰囲気などを知ってもらうことは大切なので、本校に入学し、頑張っている生徒の様子を直接見学してもらうことに重点をおく。</p> <p><学習指導></p> <p>○7月と12月実施の基礎学力診断テスト(国語・数学・英語)を活用して、生徒に自己肯定感を育むとともに生徒の基礎学力の充実をめざす。</p> <p>○7月に全校生徒が生活体験作文を作成できるように、生徒の生活環境・心理状態等の把握や、基礎学力・学習態度の育成に取り組む。</p> <p>○生徒の主体的な社会参画と自主性を育むためわかる授業の追求と特別活動や総合学習等、学校行事の充実も視野に入れて継続をはかる。</p> | | | |

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------|--|----|----|
| 授業改善 | <p>(1)効果的な授業づくりのために、計画的な授業研究や授業公開を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○保護者等の授業参観を実施する。</p> <p>教職員間の校内授業公開日を設定する。</p> <p>また、関係中学校の生徒等の参加について中学校等を通じて促す。</p> <p>【成果指標】</p> <p>○授業参観数を増加させる。学ぶ喜び、わかる楽しさを実感させる授業の実現。</p> <p>○授業公開週間時の授業参観への参加者数25名を目標とする。</p> <p style="text-align: right;">(令和2年度21名)</p> | | ◎ |

| | | | |
|-------------|---|--|--|
| <p>資質向上</p> | <p>(1)学校の活性化(特に今後の学校の方向性)について職員間でのベクトル合わせを行い、本校教育の活性化に取り組む。</p> <p>【活動指標】 職員研修の中で、学校の活性化(特に今後の学校の方向性)について検討する。(3回/年)以上</p> <p>【成果指標】 すぐに取り組めるものについては、率先実行する。 (率先実行に移せるものが3件以上を目標。)</p> <p>(2)いじめ防止、早期発見、早期対応についてしっかり取り組む。</p> <p>【活動指標】 すべての教育活動を通じた人権教育、道徳教育及び体験活動の充実を図る。 いじめの早期発見、早期対応のためアンケートを実施する。</p> <p>【成果指標】 いじめ防止に係る活動を3回/年を目標とする。 「いじめアンケート」3回/年実施 教員研修により、いじめ防止のための教員の資質向上を図る。</p> <p>(3)新型コロナウイルスへの適切な対応に努める。</p> <p>【活動指標】 新型コロナウイルスについて、正しく生徒に理解し、行動できるよう努める。</p> <p>【成果指標】 新型コロナウイルスについて、ウイルスそのものについての保健教育にとどまらず、人権教育の観点からの指導も生徒が正しく理解、行動ができるように月に一度はHR等で指導を行う。</p> <p>(4)学校における働き方改革を推進します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2日、定時退校日を設定する。 ・会議の所要時間、1時間以内を目指す。 ・各教職員の休暇取得を増やす。 ・全ての教職員が、研修会等に積極的に参加し、自らの資質能力の向上に努める。 ・年360時間越え並びに月45時間越えの時間外労働者の根絶。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回の定時退校日の定時退校実現率90%以上を目指す。 ・会議の所要時間について80%以上が1時間以内である。 ・休暇(年休・夏季休暇)の取得状況を前年度と比較し、増えている職員数50%を目指す。 | | |
|-------------|---|--|--|

| | | | |
|------|---|--|--|
| | <p>(5)コンプライアンス意識の向上・不祥事の根絶を実現するために、「学校信頼向上委員会」の設置と開催を実施し、学校信頼向上委員会を通して、不祥事根絶についての働きかけに取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校信頼向上委員会」の設置と開催により、委員会をとおしてコンプライアンス意識の向上をはかり、不祥事根絶に取り組む。 ○コンプライアンス意識の向上・不祥事の根絶を目指して、職員研修を実施する。 ○新聞報道等で不祥事の事例の記事があれば、情報共有に努め、教訓とする。 ○教職員がお互いに声をかけやすい環境づくりに努める。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンス意識の向上・不祥事の根絶を目指して、学校信頼向上委員会を年間10回程度開催し、職員研修を年3回以上実施する。 ○新聞等の不祥事事件を教訓とする件数(5件/年) | | |
| 危機管理 | <p>(1)生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるように、防災・防犯等に係る非常時の対応力の強化を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○危機管理マニュアルを常に見直し、その運用の徹底を図るとともに、必要な事項を生徒・保護者へ周知する。また、消防署・警察署等と連携して、防災訓練・防犯訓練を実施し生徒の安全の確保を図る。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の危機管理意識の向上と生徒の安全意識の向上を指標とする。 | | |
| 改善課題 | | | |

5 学校関係者評価

| | |
|----------------------------|--|
| <p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p> | |
|----------------------------|--|

6 次年度に向けた改善策

| | |
|---------------------|--|
| <p>教育活動についての改善策</p> | |
| <p>校運営についての改善策</p> | |